藻類 Jap. J. Phycol. 29: 286-287. December 10, 1981

黒木宗尚: 第13回国際植物学会議の出席報告 Munenao KUROGI: XIII International Botanical Corgress at Sydney, Australia, 21-28 August, 1981.

第13回国際植物学会議 (XIIIth International Botanical Congress) が今年 (1981) の8月21-28日に，オーストラリアのニューサウスウェールズ州シドニー市のシドニー大学で開かかれました。この会議は，オーストラリアの科学アカデミー主催で，国際生物科学連合 (I. U. B. S.) の後援のもとで行われたものです。なおこれに先だって植物命名に関する会議 (Nomenclatural Sessions) が行われました。

会議は開会式と閉会式の本会議 (Plenary Sessions) があり，専門別の12のセクションでは，各セクションごとに8～16のシンポジウム，特別講演 (General Lectures)，一般講演 (Contributed papers) およびポスター発表などがありました。シンポジウムでの講演と特別講演は企画者から招待された人達の講演で，一般講演とポスター発表がいわゆる申込みで，発表と討論合せてシンポジウム発表者は30分，特別講演者は1時間，一般発表者は15分の時間が与えられました。

専門別の12のセクションは次のようなものでした。1. Molecular Botany. 2. Metabolic Botany. 3. Cellular and Structural Botany. 4. Developmental Botany. 5. Environmental Botany. 6. Community Botany. 7. Genetic Botany. 8. Systematic and Evolutionary Botany. (8A Bryology). 9. Fungal Botany. **10. Marine and Freshwater Botany.** 11. Historical Botany. 12. Applied Botany. このうち，セクション10の海産，淡水産植物学が私共藻類研究者と直接関係のあるセクションでした。このセクションの責任者は南オーストラリア州の Adelaide 大学の H. B. S. WOMERSLEY 教授で，初め18のシンポジウムが企画されましたが，2つが中止されて，結局，次の16のシンポジウムが行われました。

1. New concepts in the morphology and taxonomy of algae. 2. Sexual reproduction and life histories in algae. 3. Taxonomic concepts in blue-green algae. 4. Diatom and other micro algal taxonomy and biology. 5. 中止. 6. Seagrasses and seagrass ecosystem. 7. Structure and dynamics of freshwater communities. 8. Structure and dynamics of phytoplankton communities. 9. Structure and dynamics of marine benthic communities. 10. Structure and dynamics of tropical reefs. 11. The future of saltmarshes and mangroves. 12. Biogeography of benthic marine plants of the Southern Hemisphere. 13. Antarctic phycology. 14. 中止. 15. Management of aquatic weeds. 16. Physiological adaptations in algae. 17. Utilization of macroalgae. 18. Commercial utilization of microalgae. 夫々のシンポジウムのあとに関連のある一般講演が行われました。これらの講演発表は合せますと181になります。その他に，セクション10に関係をもつポスター発表が32ありました。また，ハワイ大学の M. S. DOTY 教授の "The diversified farming of subtidal lands" の特別講演がありました。すべてを聞くことは勿論出来ませんし，また内容も詳しくのべることも出来ませんが，私はシンポジウム 1, 2, 3, 12, 13, 17 に興味をもちました。場所がらか，藻類以外の水生植物にも関心が強く，前記のように3つほどのシンポジウムが行われていました。印刷物としてはA5版の260頁ほどのプログラムとA4版の350頁のアブストラクト集が発行されました。関心のある方は，会議に出席した方々から見せてもらうとよいと思います。会議への参加者は正確ではありませんが，5～60カ国から3,000～4,000名位と聞いています。日本からも100名近くの方々が参加されたのではないかと思います。日本藻類学会関係では，秋山和夫，秋山優，新崎盛敏，有賀祐勝，巌佐耕三，岡崎恵視，梶村光男，川嶋昭二，原慶明，横浜康継の方々が講演され，長島秀行，堀輝三氏はポスター発表をされ，そのほかに西澤一俊，原田市太郎，古谷庫造，小島桃子の方々も出席されていました。

シドニーは南半球のオーストラリアの南東岸，南緯34度位の所，成田空港から直通便で9時間半，時差は1時間で少なく，日本からシドニーに着いた時に時計を1時間すすませ帰りは成田で1時間おくらせれば良いのです。夜行でしたので何時頃赤道を通ったのかわかりませんでした。機上でおそい夕食をすませ，早朝おこされて，朝食をむりに食べさせられると，間もなくシドニー市中心の南方約 11 km の Kingsford Smith 空港に到着でした。北半球は夏，南半球は冬

という頭で行きましたが，あちらは早春あるいは春の季節で，常緑樹の多くは新芽を出し，花を咲かせ，持って行ったコートを用いることもなく，またあまり遠くの異国にきたという感じもしませんでした。オーストラリアの面積はアメリカ合衆国と同じ位だそうですが，人口は1,400万位，シドニーが320万，少し南のメルボルンが290万といいますから，オーストラリアの人口は南東岸に集中しているのではないかと思われます。それだけに住みよい所と思われます。また実際にそのようでした。シドニー市は深く入りこんだジャクソン湾で南と北に分けられています。市街地は南に，そして住宅地や保養地は北にあります。

シドニー大学は市街地の少し南西の所にありました。1850年の創立のようですが，68ヘクタールの敷地があり，昔はユーカリの木の森だったのではないかと書いてありました。学生は18,000人位のようです。広々としたキャンパスで古風な建物が多く見なれぬ並木も豊富でした。その中のカールスロービルディング(Carslow Building) が今回の会議の主会場となり，そのほか古風な建物のメインビルディング (Main Building) などが講演会場になっていました。両方の建物の近くには夫々食堂があり，更に昼食時と夕方にはビールやワインなどのいわゆるリカー・バーも用意されていました。ビールは力があり大変おいしいものでした。

開会式は豪華なものでした。ジャクソン湾に面した大きな近代的なユニークな建物で知られるオペラハウスのコンサートホールで行われました。ある説明書に収容能力2,700名と書いてありましたが，満杯で，正面の世界一大きいと云われるパイプ・オルガンの演奏の中で入場し，お偉方の入場と共に赤い制服をきた軍楽隊のトランペットの吸奏によって開会が告げられました。会長，オーストラリア総督，州知事に代って農林大臣，そしてオーストラリア科学アカデミ会長等の挨拶その他で開会式が行なわれました。ついで約1時間に亘るオーケストラの演奏，2人の体格のよい美女による独唱で世界各国からの参加者を歓迎してくれました。これが終ってホールの外に出て，ビール，ワイン，つまみもの等でレセプションがあり，既知或いは初めての人達の間での交歓がありました。プログラムの謝辞をみても，国と州をあげての歓迎であったことがうかがいしれます。

この会議では，前後に多種の野外調査旅行，会期中の近郊の見学旅行，展示会，関連集会等がありました。海藻関係のものもありましたが，残念乍ら私は，調査旅行には参加しませんでした。またこの会議の開催を目標に作ったのであろうと思われる，オーストラリアの代表的藻類，水草学者による「Marine Botany」と「オーストラリアの海藻・草」の写真集が1981年初版として発売されていました。

南半球には，すぐれた藻類研究者が沢山おられますが，北半球に比べればその数はまだまだ少ないといえます。従って藻類については，未知のことも多く残されているのではないかと思われます。地球上の藻類，特に海藻の進化系統を考える場合に，南半球はないがしろに出来ない重要な地域であるとシドニーで改めて深く感じました。

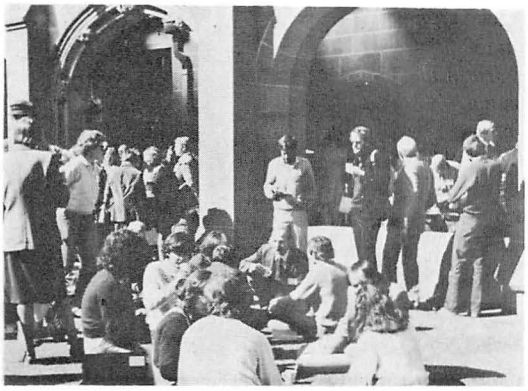

写真 1. コーヒー・ブレークの風景

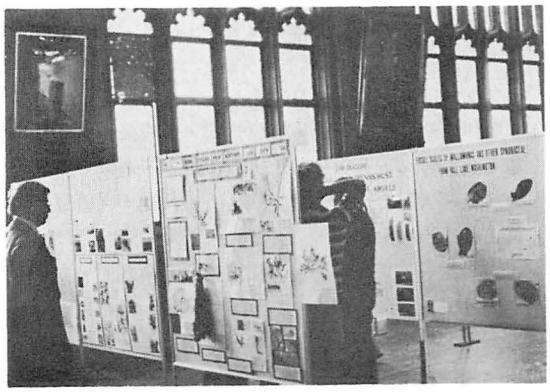

写真 2. ポスター発表会場の風景